

2025

11.19 (水) 12:10
12:50

12:10-12:15

◆発表者紹介

12:15-12:40

◆プレゼン

12:40-12:50

◆質疑応答

オンライン
(Zoom)

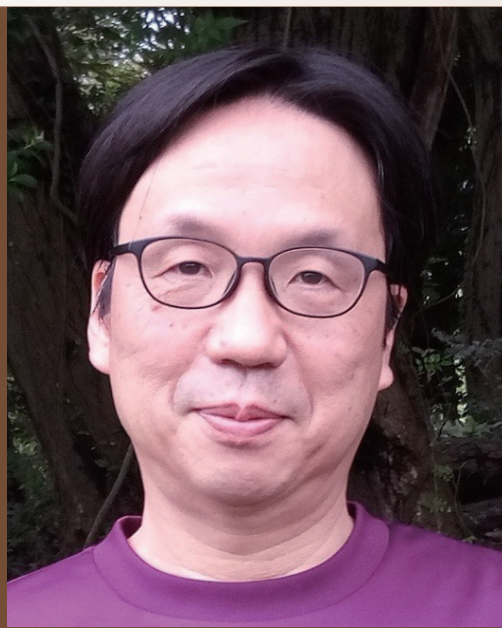
登録はこちら▶▶

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_cnxD2SuvSvadT9LR4-fCcA

【技術支援】九州大学 Q-AOS

木もみて森もみる、人もみる

－ 熱帯林の保全に向けた学際的なマルチスケール研究 －



Key Words

東南アジア

リモートセンシング

フィールド調査

熱帯林

溝上 展也 教授

農学研究院 環境農学部門

九州大学農学部にて学び、同助手、宮崎大学農学部・助教授、九州大学農学部准教授を経て現職。その間、スイス、ドイツ、カナダにてそれぞれ約1年間、在外研究をしてきました。専門は森林計画学で、1) 森林計測データの品質保証と有効利用、2) 針葉樹人工林の帯状・群状伐採方式、3) 東南アジアにおける持続可能な森林経営に関する研究に取り組んでいます。2025年度より、保護・保全地域の熱帯林保全効果に関する学際的な研究プロジェクト(基盤研究S)を開始し、インドシナ半島5か国(カンボジア、タイ、ベトナム、ミャンマー、ラオス)を対象にフィールド調査とリモートセンシングを組み合わせた学際的な研究を進めています。

熱帯林の減少・劣化は、地球環境問題の一つとして重要視されています。本セミナーでは、私たちの研究室が取り組んできた学際的なマルチスケール研究を紹介します。広大な森林の変化を効率的に捉えるために、人工衛星、航空機、ドローンなどを用いたリモートセンシングを利用してきました。しかし、上空からの観測だけでは把握できない情報も多く存在するため、ジャングルの奥深くに分け入り、数十年にわたり木々の生死を観察してきました。また、地域住民の森林利用の実態等を理解するため、対面式のインタビュー調査も実施してきました。本セミナーでは、こうしたアプローチから得られてきた知見や今後明らかにしたい課題について共有します。